

校歌の制定

昭和二年二月十一日、紀元節を卜^{ぼく}して校歌を制定することになり、歌詞は林正作、作曲は梅村あさの曲により校歌が誕生した。「天王川と志津川の、恵みあふるる千町田に……」と格調の高い歌詞の中にも児童に親しまれる平易な内容で、終戦の昭和二十年まで歌われていた。戦後になって歌詞の中に「春日の宮の広前に」「皇御国につくさまし」など国家主義・軍事主義の内容があったため、中絶されていた。昭和四十七年校歌復活の声がおこり、当時の渡辺紀校長によって歌詞の一部に手を加え、再び児童の心の拠^{よりどころ}所として毎週朝礼に歌われるようになった。

訂正の箇所は次のとおりである。

黄金花咲く村の名の、黄金花咲く町の名は、
天津ぞ高き誇りなる。南の児等の誇りなり
皇御国につくさまし、国の栄えにつくさまし